

気仙沼・木質バイオ事業説明会

間伐材提供 協力を要請 搬出方法に不安の声も

地域の森林資源を活用した木質バイオマスエネ



間伐材の買い取り説明会

ルギーの供給に向け、気仙沼地域エネルギー開発（気仙沼市）は19日、燃料用の間伐材の買い取り制度説明会を気仙沼市役所で開いた。

高橋正樹社長が「全国でも成功例は少なく簡単でないが、この仕組みで豊かな山と海の実現を目指したい」と協力を求めた。1ト6000円とする個人向け買い取り価格などを説明した。

約70人の林業経営者が出席。所定の場所まで材

木を運ぶルールについて「木を切ることはできるが、運搬が難しい」「個人では林道も造れない」など搬出の困難さを指摘する意見があった。会社側がサポート態勢や対応策を今後、検討する。

一方、震災後に木が売れなくて困っていたという若手経営者は「多少の赤字にはなるが、間伐材を片付けられるだけでもありがたい。早速利用したい」と歓迎した。支払い分の半分につい

ては、地域通貨「Ren eria（リネリア）」を発行して域内循環を図り、市内店舗の消費拡大に結び付ける計画。

木材はチップ材とし、同社がまきボイラー用

などに供給する。将来は

熱電併給システムを導入。燃焼エネルギーの売却を目指す。買い取りは12月1日から始まり、本年度は来年3月9日まで計7回予定されている。

プロジェクトは気仙沼市が国の補助事業の認定を受け、同社に委託し取り組んでいる。年度内の試行を経て、来年度以降も継続する。